

(別紙 1) ノボキニン蓄積イネ (nfGluA2, *Oryza sativa* L.) (OsNV3) の栽培実験結果

農研機構生物機能利用研究部門

令和 5 年 3 月 10 日

### 1. 栽培実験の目的

ノボキニン蓄積イネの遺伝子組換えイネの野外栽培における生育特性等の調査及び植物の成分分析のための材料確保等。

### 2. 栽培実験に使用した第一種使用規程承認作物

本栽培実験で栽培したノボキニン蓄積イネ (nfGluA2, *Oryza sativa* L.) (OsNV3) (以下「遺伝子組換えイネ」という。) は、農研機構生物機能利用研究部門が遺伝子組換え技術を用いて開発し、平成 30 年 5 月 25 日に文部科学大臣及び環境大臣より第一種使用規程承認を受けたものです。

ノボキニンは卵白のオボアルブミンに由来する 6 アミノ酸からなるオボキニンペプチドをアミノ酸置換により高機能化した物質です。先天性高血圧ラットへの経口投与では血圧降下作用が示されています。ノボキニン蓄積イネは、ノボキニンペプチドを含んだ改変グルテリン (nfGluA2) 遺伝子を導入し、イネの可食部 (胚乳) に蓄積させたイネです。

### 3. 栽培実験の実施場所 (隔離ほ場の位置等)

本栽培実験は、農研機構観音台地区内にある、下記の 2 か所の隔離ほ場で行いました。

#### (1) 観音台第 2 事業場隔離ほ場 (以下「観 2 隔離ほ場」という。)

隔離ほ場の所在地：つくば市観音台 2-1-2

使用した区画と栽培面積：隔離水田 3 及び 4 (約 7.7 アール、図 2 参照)

#### (2) 観音台第 3 事業場組換え植物隔離ほ場 (以下「観 3 隔離ほ場」という。)

隔離ほ場の所在地：つくば市観音台 3-1-3

使用した区画と栽培面積：梓水田 B (約 0.25 アール、図 4 参照)

#### 4. 栽培実験の実施期間

栽培実験の実施期間は以下の通りです。なお、栽培実験で使用した遺伝子組換えイネの苗は全て、令和4年5月13日（金曜日）に観2隔離ほ場内ガラス室に種もみを搬入し、播種・育苗を行ったものです。

##### (1) 観2隔離ほ場

令和4年6月1日（水曜日） 田植え、防鳥網設置  
令和4年7月29日（金曜日） モニタリング用指標作物配置  
令和4年8月5日（金曜日） 遺伝子組換えイネ開花開始  
令和4年8月22日（月曜日） 遺伝子組換えイネ開花終了  
令和4年8月23日（火曜日） モニタリング用指標作物撤去  
令和4年9月28日（水曜日） 収穫（稲刈り）  
令和4年12月20日（火曜日） ひこばえの枯死を確認  
令和5年1月11日（水曜日） 防鳥網撤去  
令和5年1月12日（木曜日） 鋤き込み

##### (2) 観3隔離ほ場

令和4年3月28日（月曜日） 防鳥網設置  
令和4年6月2日（木曜日） 田植え  
令和4年7月29日（金曜日） モニタリング用指標作物配置  
令和4年8月5日（金曜日） 遺伝子組換えイネ開花開始  
令和4年8月19日（金曜日） 遺伝子組換えイネ開花終了  
令和4年8月22日（月曜日） モニタリング用指標作物撤去  
令和4年9月29日（木曜日） 収穫（稲刈り）  
令和4年11月10日（木曜日） 鋤き込み、防鳥網撤去

#### 5. 同種栽培作物等との交雑防止措置等

##### (1) 交雑防止措置

「3. 栽培実験の実施場所（隔離ほ場の位置等）」に示した栽培区画は、各事業場外の最も近いほ場から500m以上、各事業場内における試験用水田からも30m以上離れています。

交雑の可能性が想定されるような開花前の低温はありませんでした。また、開花期の風速平均が毎秒3mを超えることはありませんでした。

##### (2) 交雑調査結果

栽培した遺伝子組換えイネの交雑調査のため、各隔離ほ場を囲むように、敷地境界付近に開花期が重複するモニタリング用の指標作物としてモチ品種「関東糯236号」を植えたポットを配置しました。（図3及び5参照）

モニタリング用指標作物から収穫した種子について、観2隔離ほ場では14,486粒、

観3 隔離ほ場では 14,764 粒を調査しました。その結果、キセニア現象\*を生じていたものは各事業場ともに0粒で、交雑は認められませんでした。

\*キセニア現象：モチ品種にうるち品種の花粉が受粉・受精すると、うるち米が結実する現象。うるち品種のコメは半透明に見えるが、モチ品種のコメは白濁して見えるため、これらが混じると目視で確認できます。本遺伝子組換えイネはうるち品種であることから、モチ品種をモニタリング用イネに用い、収穫したモニタリング用イネの種子を調べることでうるち品種の花粉が飛散し、交雑していないかどうかを調べることができます。

#### 6. 研究所内での実験材料、収穫物の混入防止措置

- (1) 遺伝子組換えイネの種子を保管場所から育苗施設へ搬入する際は、漏出しない構造の容器に入れて搬送しました。育苗した苗を隔離ほ場に搬入する際には、苗を漏出しない構造の容器に入れて搬送しました。
- (2) 栽培期間中は水田区画に防鳥網を設置しました。
- (3) 収穫したイネは隔離ほ場内で乾燥・脱穀しました。

#### 7. 収穫以降の第一種使用規程承認作物の処理

- (1) 収穫物は、漏出しない構造の容器に入れ、他の種子と区別して実験室や低温室に保管しています。今後、野外栽培における生育特性等の調査や種子の成分分析等の材料として使用します。
- (2) 水田内に残った残渣（ワラ等）や株は、観2 隔離ほ場は越冬性試験終了後、観3 隔離ほ場は収穫（稲刈り）後に、不活化処理のために隔離ほ場内水田内に鋤き込みました。
- (3) 脱穀後に残った残渣等は、不活化処理のためオートクレーブや焼却にて処分あるいは隔離ほ場水田内で細断して鋤き込みました。

#### 8. 栽培実験に係る情報提供

令和4年3月28日（月曜日） 栽培実験計画書の公表と説明会開催の案内  
（プレスリリース）

令和4年4月20日（水曜日） 栽培実験に係る説明会開催

令和4年4月22日（金曜日） 栽培開始のお知らせ

令和4年9月13日（火曜日） 収穫のお知らせ

令和5年3月10日（金曜日） 栽培実験結果の公表について

以上のプレスリリースと各お知らせは農研機構ウェブサイト（下記 URL）に掲載し

たほか、茨城県、つくば市、JA つくば市谷田部、JA つくば市、近隣自治会等へ電子メールまたは文書にて情報提供を行いました。

<https://www.naro.go.jp/laboratory/nias/gmo/news/fiscal/2022/index.html>

栽培開始から収穫までの期間、遺伝子組換えイネの生育状況を農研機構ウェブサイト（下記 URL）にて公表しました。

[https://www.naro.go.jp/laboratory/nias/gmo/news/gene\\_recombination/index.html](https://www.naro.go.jp/laboratory/nias/gmo/news/gene_recombination/index.html)



図1 つくば市観音台地区周辺の地図と各隔離ほ場の配置

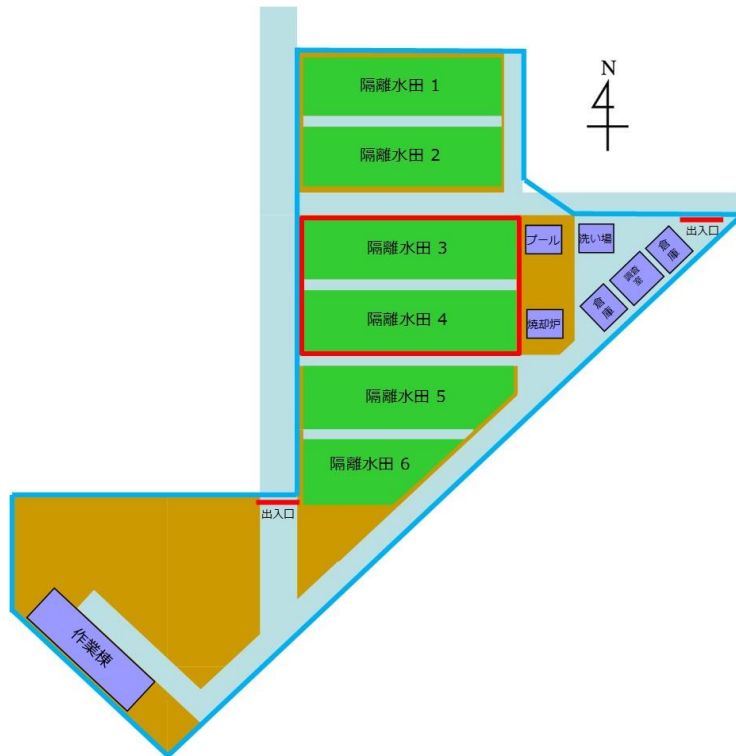


図 2 観音台第 2 事業場隔離ほ場内の配置図



図 3 観音台第 2 事業場隔離ほ場（緑色）周辺のモニタリング用指標作物の配置場所（赤数字）

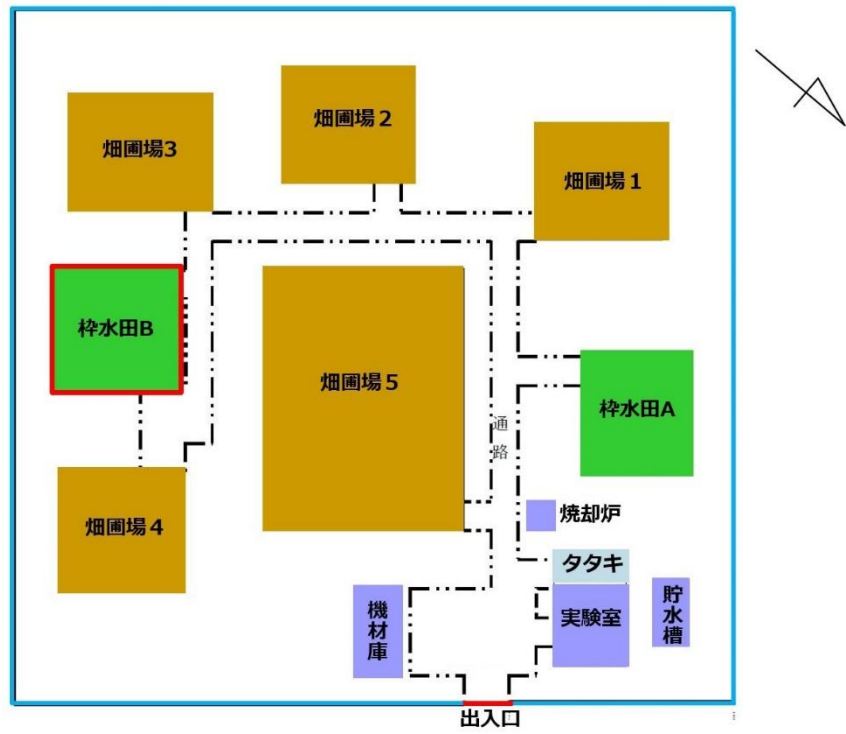


図4 観音台第3事業場組換え植物隔離ほ場内の配置図

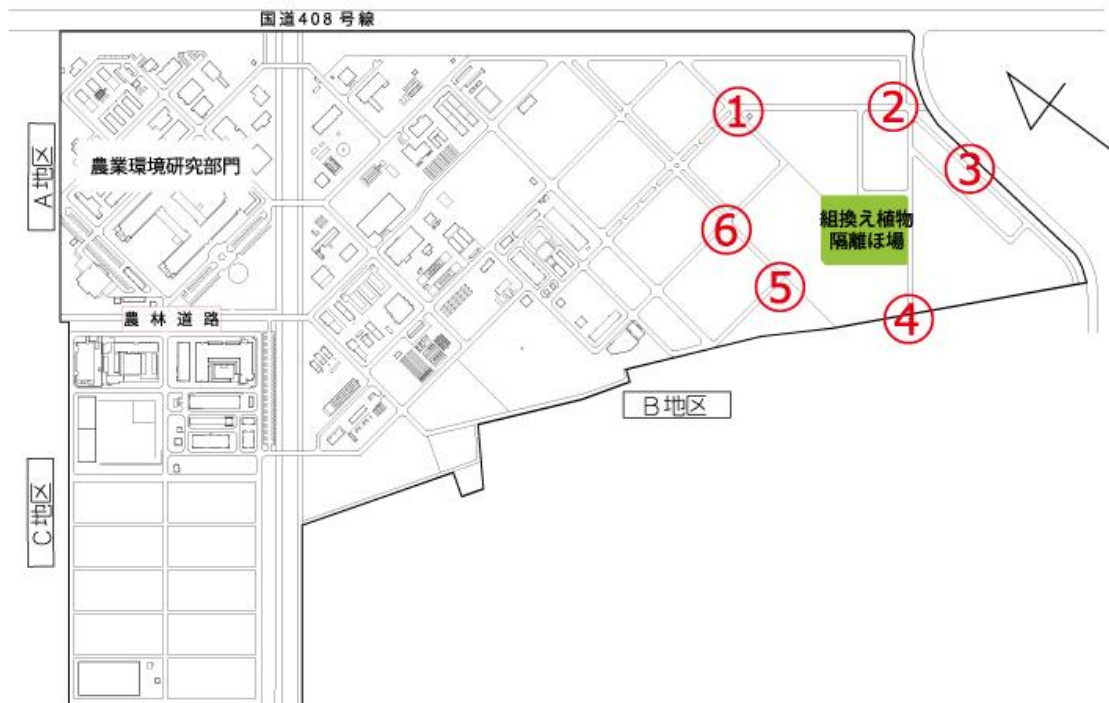


図5 観音台第3事業場組換え植物隔離ほ場（緑色）周辺のモニタリング用指標作物の配置場所（赤数字）